

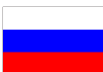
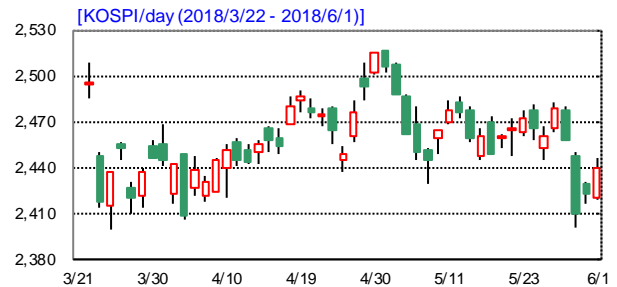


【韓国】 総合指数は週間で0.9%安と反落、今週も米朝会談を巡る動向に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.9%安と反落した。週初の29日は約3週間ぶりの高値を付けて始まった。トランプ米大統領が中止を表明した米朝首脳会談の実現に向けて調整が進む見通しとなり、投資家心理が改善した。ただ、29-30日は欧州の政局不安を背景とした世界的な株安のあおりを受けて、リスク回避の姿勢が強まった。30日には約2カ月ぶり安値まで下落。週後半は、欧州不安の後退に加え、韓国の5月の貿易統計で堅調な外需を背景に輸出がプラスに転じたことも好感された。米朝首脳会談の開催を目指し、北朝鮮の高官が訪米したことも材料視された。今週は米朝首脳会談の開催が12日に決まったことを受け、核問題を巡る動向が注目される。週後半には韓国の4月の国際収支（経常収支・貿易収支）が発表される予定。

▼指数チャート

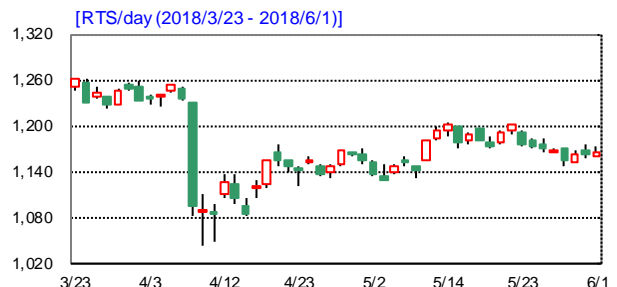


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.5%安と3週続落、今週も原油相場をにらむ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.5%安と3週続落。週前半は原油安や通貨ルーブル安が嫌気され軟調な展開となったが、その後は原油やルーブルの反発を受けて下落幅が縮小した。資源・エネルギー株の時価総額比率が47%を超えるRTS指数は先週も原油相場をにらんだ展開。前週に一時80ドルを上回ったブレント原油が75ドル割れまで下落し、指数は週前半に続落。その後、ブレント原油が79ドル付近まで反発し、ルーブルの下落も一服したことで指数は値を戻した。国営のスベルバンクの1-3月期の利益が過去最高を更新したことが投資家心理の改善につながったほか、クレディ・スイスが投資判断を引き上げた天然ガス生産のノヴァテクが4%近く上昇し、指数の下支えとなった。今週も原油相場の動向をにらんだ展開か。

▼指数チャート

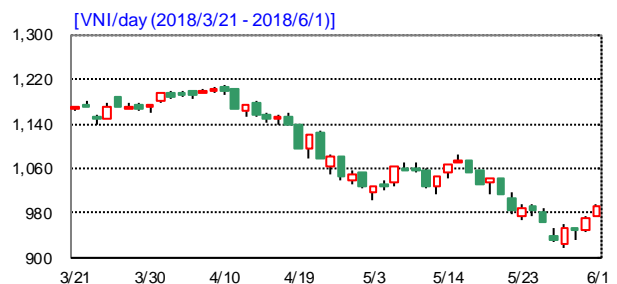


【ベトナム】 VN 指数は週間で3.0%高と3週ぶり反発、今週も買い戻し優勢か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で3.0%高と3週ぶりに反発。欧州の政治リスク後退が好感されたほか、前週までの大幅下落により割安感が強まったことで買い戻しの動きが広がった。週明け28日はエネルギー株や金融株が売られ、指数は前週末比3.3%安と大幅に続落。ただ、南欧の政局不安を受けたリスクオフが一服したことでその後は買い戻しが優勢となった。時価総額最大の不動産のビンググループが週間で11.2%高と5週ぶり、金融のベトナム外商銀行が14.0%高と8週ぶりに反発した。一方、原油安が重しとなり、ペトロベトナム・ガスは12.2%安と大幅続落した。VN 指数は週初に長期のトレンドラインの200日移動平均線を大きく割り込んだが、週後半は大幅続伸し、この水準を上回った。今週は引き続き買い戻し優勢の展開か。

▼指数チャート

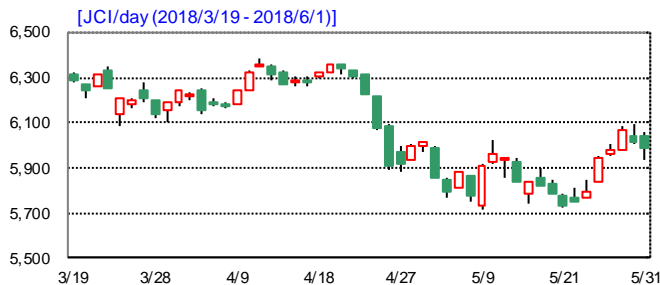


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%高、中央銀行が 5 月 2 度目の利上げを決定

ジャカルタ総合指数は 3 日間の取引で 0.1%高と続伸。5 月月間では 0.2%安。先週は前週の勢いを引き継ぎ、週初こそ上値を広げたが、その後は軟調な値動きだった。28 日は中央銀行が 30 日に開催する臨時の金融政策決定会合で、ルピア安の加速防止策として追加利上げが実施されるとの見方が広がり金融株が上昇。指数は終値ベースで前営業日比 1.5%高と約 4 週間ぶりに終値で 6000 ポイントを回復した。ただ、30 日は利上げの決定が外国人投資家に歓迎されたが、イタリアの政局混迷が嫌気されて 6 営業日ぶりに反落すると、31 日も続落して引けた。今週は 4 日発表の 5 月の CPI に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

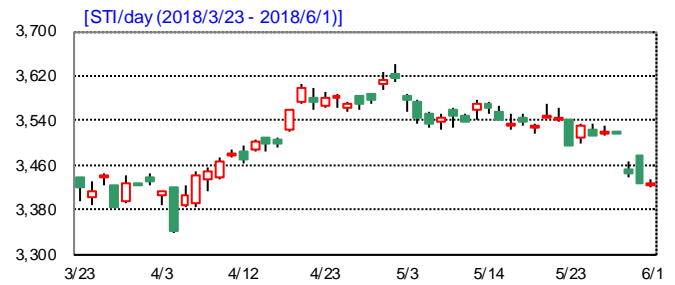


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.4%安、今週は 5 月の製造業 PMI が焦点

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 2.4%安と 3 週続落。5 月月間では 5.1%安。先週は国内の経済イベントが少ない中、外部要因が週の下げ幅を広げた。週初の 28 日は小幅に反発したが、祝日を挟んだ 30 日は、深刻化するイタリアの政治不安を背景とする世界的な株安を受けて、指数は終値で前日比 2.1%安と反落。その後も買い材料に乏しく、結局 1 日まで 3 日続落して引けた。今週は 4 日の取引終了後に 5 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 52.9 を上回れば好材料。外部要因では前週末に発表された 5 月の米雇用統計で、非農業部門の就業者増加数が市場予想から上振れた効果が期待される。

▼指数チャート

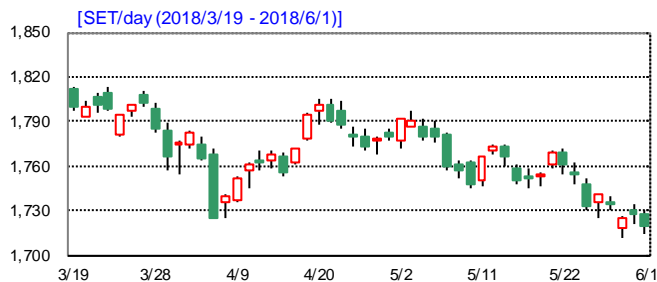


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%安、原油価格下落でエネルギー株に売り

SET 指数は 4 日間の取引で 1.2%安と 4 週続落。5 月月間では 3.0%安。先週は総じて軟調な値動きだった。週初の 28 日は前週末の NY ダウが続落した流れを引き継ぎ反落してスタート。祝日を挟んだ 30 日は、イタリアの政局混迷に加え、米トランプ政権が 6 月中に中国製品に対する制裁課税を発動する意向を示したことが嫌気された。一方、31 日はイタリアの政治不安に対する警戒がやや和らいだ効果で小幅に反発。ただ、1 日は米国の産油量が増加した影響で原油価格が下落し、タイ石油公社 (PTT) が売られて指数を押し下げた。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開が続きそうだ。

▼指数チャート

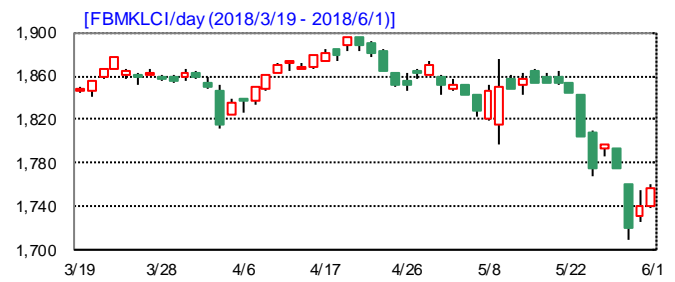


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.3%安、高速鉄道計画の中止で建設株が下落

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 2.3%安と続落。5 月月間では 6.9%安。先週は不安定な値動きが続いた 1 週間だった。28 日は新政権発足後の財政政策に対する懸念が広がり、外国人投資家による売りが加速した影響で指数は終値ベースで前営業日比 1.2%安と反落。30 日はマレーシアとシンガポールを結ぶ高速鉄道計画が中止されたことを受けて建設株に売りが集中し、さらに 3.2%下落した。一方、31 日は大商いの中、前日に大幅下落した反動で国营電力会社テナガ・ナショナルなどが指数上昇をけん引し 1.2%高と 3 営業日ぶりに反発。今週は 5 日に発表される 4 月の貿易統計の内容が焦点になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。